

音楽 小学校第2学年 おまつりの音楽

リズム作成での活用

書き込み

動画再生

いくつかの日本の祭りの音や映像を見て、いろいろな太鼓に興味をもたせるとともに、リズムが生み出すよさを感じ取り、自分でリズムを作ることを目的にしている。

はじめに、実際の祭りの映像を見て、そこにリズムがあることを発見させる。

次に、リズム例を示したリズムカードを紹介し、各自そのリズムを手拍子で打つ練習をする。

最後にリズムカードを組み合わせて「マイリズム」をデジタル教科書の枠に自分で書き込んで手拍子を打ったり、友だちのリズムと一緒に組み合わせたりすることによって、リズムが生み出す良さを感じながら演奏の楽しさに触れさせることができる。



マイリズムを作っている様子

音楽 小学校第5学年 音の重なりを感じ取ろう

合唱練習での活用

書き込み

「いつでもあの海は」の合唱の練習をする際、歌詞の意味や音の重なり方に注目して、まずは自分なりの思いや意図をもって歌い方をどのようにすればよいか考えた。

その際、デジタル教科書を用いて、強弱記号を書き込んだり、ペンや付箋などのツールを使って印を入れたりメモを書いたりした。

そして、グループでの話し合い活動では、自分が書き込んだ楽譜を見せ合いながら、グループとしてどのように歌い方を工夫するかを話し合った。

グループでの話し合いをまとめる際には、グループの代表者の楽譜に個人の意見を書き込んだが、個人の意見とグループのまとめとが区別できるように、ペンの色を変えたり付箋を変えたりすることができ、とても有効であった。



楽譜に書き込んでいる様子

音楽 小学校第5学年 いろいろな音色を感じ取ろう

リズム作成での活用

ワークシート

教材「打楽器でリズムアンサンブル」は、楽器の材質の違いによる音の特徴や音色の違いを生かし、三人一組でグループごとにリズム楽器を選択し、合奏をする教材である。

選択した楽器とそれに合うリズムを選び、演奏をする時に、まなビューアのワークシートを利用した。

ワークシートをクリックすると、教科書に載っているリズムを聴くことができる。自分でリズムを主体的に選び、選んだリズムを聴くことができるため、自分たちでリズムを確認しながら意欲的に学習をすすめることができた。また、このワークシートは、リズムの重ね方を記入し、拍を刻む音を出すことができる。3人で話し合ってワークシートに記入し、試奏をしながらそれぞれの考えを組み合わせることで、楽しく取り組むことができた。



ワークシートをクリックし、リズムを確認する児童

音楽 小学校第5学年 いろいろな音色を感じ取ろう

リズム作成での活用

動画再生

デジタル教科書を活用してリズムアンサンブルを行った。はじめにデジタル教科書の音出し機能を活用してリズムパターンを理解し、自分が演奏するリズムを選んだ。次に同じく音出し機能を活用し、演奏する楽器を各々で選んだ。続いて選んだリズムと楽器をデジタル教科書に設定し、音を聞きながら個人で練習した。その後グループの演奏スタイルを設定し、アンサンブルの完成形をデジタル教科書の演奏で確認しながら、楽しい演奏にするための話し合いを行い練習した。最後にアンサンブル発表会を行った。デジタル教科書を活用することで、児童が自分のペースで活動できた。演奏の練習も、混乱する児童が出てきやすい活動であるが、デジタル教科書を活用することで児童が自ら活動できた。活動時間も効率的であった。



楽しい演奏について話し合っている様子

音楽 小学校第5学年 日本の音楽に親しもう

リズム作成での活用

図形等操作

画面上で、音符を動かして旋律を作ることができるため、リコーダーの演奏が苦手な児童も、何回も再生して試しながら、旋律をつくることができる。

何回も試すことができるため、イメージと音をつなげることが容易になる。

また、決められたリズムの中で、音階のみを設定することができるため、「日本の音階を使って」ということに絞った指導が容易になる。



音符を上げ下げすることで旋律をつくる様子

音楽 小学校第5学年 いろいろな音色を感じ取ろう

リズム作成での活用

図形等操作

自分たちで選んだ言葉とリズムで、リズムアンサンブルをつくる学習である。この学習のポイントは、「試行錯誤」である。試行錯誤を通して、全体のまとまりを考えてパートの重ね方や終わりの部分を工夫してリズムアンサンブルをつくることができるようにしたい。そこで、学習者用デジタル教科書のデジタルコンテンツが有効なツールとなる。試行錯誤が容易にできるというデジタルのメリットを生かし、児童は何度も自分たち



グループでのリズムアンサンブルづくり

でリズムをつくり直したり、実際に音を聞いたりしながら、グループでリズムアンサンブルをつくることができた。また、イヤホンを使用することで他グループの学習を妨げずに、それぞれがつくったリズムアンサンブルを何度も聞くことができた。効果的な活用が見られた事例である。

音楽 小学校第5学年 いろいろな音色を感じ取ろう 和音の移り変わりを感じ取ろう

リズム作成での活用

図形等操作

和音の学習では、和音の移り変わりによる響きや変化について学ぶのだが、音符や音階になれていない児童が理解するには非常に難しい単元である。そこで、デジタル教科書の鍵盤の絵と和音を掲示する教材を活用して学習に取り組んだ。1度の和音やIV度の和音などをタップすると、対象の鍵盤が赤色で示されるので、視覚的に和音の移り変わりを理解しやすく、また、教員が弾いて、音の変化や音の重なり、長調と短調の音階の違いに気づくのに有効であった。次のリズムアンサンブルにもつなげることができ、リズムがわかりにくい児童には繰り返して聞くことで、拍やリズムも見て確認できるため自主練習をすることが容易となった。児童同士で確認し、体感的に音楽を学ぶことができ、和音の学習に効果的であった。



拍も入ったリズムを再生する様子

音楽 小学校第5学年 声のひびき合い

リズム作成での活用

図形等操作

これまで、和音を使っの音楽づくりでは、毎回自作のワークシートを使っていた。そのため、リズムを変えたり和音の音色を使うことが難しかった。

しかし、デジタル教科書を活用し「おとづくり」のコンテンツを効果的に使うことにより、個に応じた対応も可能となり、誰でも簡単に曲を創作することができた。

また、創作した自らの作品をすぐに再生することができるため、その場で児童が確かめることもできる。

また、自分の作った曲の音を容易に変えたり、リズムを変えたりすることもでき、授業効果も上がった。



和音を使った曲作りの様子

音楽 小学校第6学年 いろいろな音色を感じ取ろう

リズム作成での活用

図形等操作

ボイスアンサンプルの例を実際に聴くことができるので、例に習ってどのような発声をすればよいか分かりやすく、スムーズに練習に取り組むことができた。

また、アクセントの位置や、声の高さにおいても例を聴くことでイメージしやすく、工夫した表現につながりやすかった。

ワークシートではドラッグすることで簡単に音符や休符を書き込むことができるので、書くことが苦手な児童にとっても、すぐにつくることができ、いろいろなリズムの組み合わせを試すことができた。

つくったリズムをすぐに再生できるので、友だちと聴き合ったり、重ねたりして、全体のまとまりを考えながら、工夫してリズムアンサンプルをつくることができた。



工夫してリズムアンサンプルをつくる児童

音楽 小学校第6学年 いろいろな音色を感じ取ろう

リズム作成での活用

図形等操作

これまで音楽づくりの授業では、教科書やワークシートに音符や階名等を書き、リコーダーや鍵盤ハーモニカ等の楽器で音を出して確かめながら音楽をつくってきた。

しかし、デジタルコンテンツを利用することで、和音にふくまれる音やリズムを選び、再生ボタンを押すだけで自分がつくった旋律を再生することができるため、児童が自分ですぐに聴いて確認することができる。また、音を選び直したり、速さを変えたりできるので、いろいろなパターンで試すことが容易にできる。

さらに、和音や低音も再生されるので、自分がつくった旋律を和音と低音の響きやその移り変わりを感じながら演奏することもできる。その際、イヤホンを使用すれば周囲の児童の学習を妨げずに音楽づくりを行うことができる。



試行錯誤しながら作曲活動を行う児童

音楽 小学校第6学年 いろいろな音色を感じ取ろう

リズム作成での活用

図形等操作

6年生の音楽づくり教材「ボイスアンサンブル」では、学習者用デジタルコンテンツを効果的に用いることができる。好きな音符や休符を組み合わせでパートのリズムを作り、すぐに聴くことができるので、児童はリズムづくりに没頭する。速度を変えて面白さを味わったり、3つのパートのリズムを重ねて聴いてはリズムを作り直したり、児童は何度も練り直してつくる。



パートでボイスアンサンブルでリズムを作成する児童

声に出して演奏する時にも、タブレットでリズムを流しながら、それに合わせて練習することで演奏しやすい。速度を変える機能がついていることで、易しい速さで練習して、慣れたらスピードアップを楽しむこともできる。言葉を入れたリズム打ちを一斉指導で楽しんでからタブレットを用いると、見通しをもって音楽づくりができる。

音楽 小学校第6学年 いろいろな和音のひびきを感じとろう

リズム作成での活用

図形等操作

旋律づくりとなると、①記譜の知識・技能②思いや意図を旋律の上がり下がりやリズムで表現する力③完成した旋律を楽器で再現する技能など、児童にとってどれが欠けても思い通りに旋律をつくることは難しい。



旋律を作っている様子

学習者用デジタルコンテンツのワークシートを活用することで、①～③の課題が一気に解決した。音の高さを選択することが容易で、「だんだん高く」「だんだん低く」などが視覚的に示され、試行錯誤に時間がかからない。また、簡単に記譜ができ、すぐに聞いて確かめることもできるため、繰り返し試行錯誤することができる。出来上がったものをいったんスクリーンショットし、作り直したものと比較している児童もいた。より自分の思いや意図をもって表現することが可能になった。

音楽 中学校第1学年 創作

リズム作成での活用

図形等操作

中学1年生の音楽の授業時数が年間45時間になってから長らく経過する中、創作活動にかかる時間を確保することができず困っていた。

しかし、デジタル教科書を使用することにより、自分が選んだ音符や休符をつなげたものをすぐに再生することができるため、生徒と楽譜の距離感を縮める上で大変効果的であった。

また、そのことから譜割りが覚えやすく、生徒も楽しく創作活動をすることができた。

「リズムチャレンジ」では、お互いが創作したものを聴き合い、4小節のまとまりとして「かっこいいリズム」や「落ち着いたリズム」などの感想を述べ合う場面も自然に見受けられた。



リズムチャレンジで創作活動に取り組む生徒

音楽 中学校第3学年 歌唱

合唱練習での活用

書き込み

文化祭の合唱練習を始める前に、合唱に適した歌い方とはどのような姿勢、呼吸であるのかを確認している。

合唱練習が進む中、振り返りとして使用する。教科書に記載された歌い方のポイントの自分ができている部分には赤、まだ身につけていない所には青で枠を付けさせる。

一目で自分ができている所や課題がわかりやすくなる。

また、自分で枠を付けることでもう一度内容を確認し、できていないところを克服しようとする意識をもたせる。

本学年はデジタル教科書の使用について本時が初めてだったので、導入として、使用方法をシンプルにすることと、使えるツールを確認するためにこの活動を行った。



自分の歌唱法を振り返っている様子

音楽 中学校第2学年 音楽の約束

リズム作成での活用

図形等操作

学習者用デジタル教科書とデジタルコンテンツ集を活用して、音楽のリズムづくりを行った。

デジタルコンテンツ集はリズム作りや作曲、譜面の読み方などを実際に音を出しながら確認することができるため、紙の教科書に比べ聴覚を生かした学習ができる。

リズム作りの単元では、譜面ではリズムがよくわかっていない生徒が、コンテンツを使って何度も譜面を置きなおしてリズムの違いを確認しながら、納得のいくリズムを作り出すことができた。

譜面のルールは紙面の教科書で確認しながら、コンテンツでシミュレーションするなど、それぞれの教科書を場面に応じ使い分けてリズム作りに取り組んでいた。



デジタル教科書のリズムづくりコンテンツ